

目指す学校像	大砂土小学校を誇りとし、149年の伝統を深化・充実させる ～通いたい、通わせたい、勤めたいと思える学校づくり～
--------	---

重点目標	1 真の学力の向上と考える力の育成、児童が「本気で学ぶ」ことができる指導方法の工夫改善 2 「地域とともにある学校」として、保護者・地域と目標を共有し、連携して子どもたちを育む教育の推進 3 安全で安心できる教育環境の整った学校づくり 教育支援・教育相談体制の充実 4 持続可能な指導体制を構築するための教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに、全国、市平均と比べて概ね良好な結果である。 ○日頃の学習の様子から、学習に対して自らの課題を見出し、主体的に学習に取り組むことができる児童が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果において、各領域等での顕著な課題は見出せないものの、問題文を読解して解答を導き出すことに課題がある児童も見られる。 ○知識・理解に対する習得は十分である傾向が見られるが、多様な発想や考えを生かし、柔軟な表現を創造することに課題がある児童も見られる。	・「真の学力」を育成する学習指導の工夫改善、学びの自律化に向けた情報端末の活用 ・読解力向上のための取組の充実	①全国学力・学習状況調査の自己採点に基づく振り返りと、スタディサプリやドリルパークを生かした主体的な学びの時間を確保する。 ②デジタルコンテンツを生かした個別の学習ログを活用して、個に応じた指導と評価を充実させる。	①教職員・児童・保護者に対するアンケート調査の、「真の学力」を育成する取組に対して肯定的な回答が90%以上となったか。 ②教職員の個に応じた指導の充実に関するアンケート調査の肯定的な回答割合が90%以上となったか。						
2	<現状> ○学校運営協議会を設置し、大砂土小学校コミュニティ・スクールを推進している。児童の実態に応じた熟議を重ねていく。 ○来年度、開校150周年を向かえる準備を計画的に進めていく。 <課題> ○「地域とともにある学校」となるべく、情報共有や情報発信に努めているが、コロナ禍で実施することができなかった行事等の再開に課題がある。 ○挨拶やコミュニケーションなど、児童に育てたい力に関する熟議を重ね、その実現に向けた方策を協働的に実践することが困難である。	・郷土を愛し、自律した学習者を育む「大砂土小学校コミュニティ・スクール成長プラン」の策定 ・目指す児童の姿を地域全体で共有・支援する教育活動の効果的な公開	①学校 HP に学校運営協議会や SSN などの取組を紹介するページを作成し、目指す児童の姿を分かりやすく周知する。 ②学習状況調査などの客観的なデータに基づく、児童の意識や実態を基にして、学校独自の成長プランの策定を進める。	①学校の情報公開に関する保護者へのアンケート調査の肯定的な回答割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価に関するアンケートにおいて、目指す児童の姿の共有に関する保護者の肯定的な回答割合が90%以上となったか。						
3	<現状> ○全国学力・学習状況調査「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をする児童の割合は、全国・市平均を上回っている。 ○特別支援学級や通級指導教室の設置が進んでいるが、設備の老朽化が著しく、また、特別教室等が学校規模としては十分ではない。 <課題> ○児童数、学級数の増加傾向が継続し、毎年、普通教室への転用が課題となっている。 ○理科室、図工室、家庭科室が1教室しか確保できず、安全面に配慮した授業の展開が困難である。	・児童一人ひとりの個に応じた細やかな教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実 ・安全を最優先にした設備利用等の工夫と主体的に安全に配慮することができる児童の育成	①教育支援や教育相談体制の周知の徹底と情報端末を活用したアンケートや面談の効率的な記録と活用を推進する。 ②定期開催の部会の集約とケース会議等の情報共有の徹底、組織的対応の徹底に基づく、誰一人取り残さない支援対応を確立させる。	①活用しやすい情報共有のためのデータベースの確立を図ることができたか。 ②月2回以上の教育相談日の設定と適宜のケース会議を開催し、情報共有・組織的対応の充実を図ることができたか。						
4	<現状> ○高学年での教科担任制の実施、一人一分掌主任の徹底など業務遂行の効率化、情報の共有化を進めている。 ○学校課題研修として「未来の教室」の具現化を掲げ、エバンジェリストを中心とした教職員の研修体制を充実させている。 <課題> ○各主任等を核として組織的対応や、業務の平準化が不十分で偏りが見られる。 ○教師一人ひとりが自己の専門性を高めることができず、よい授業のイメージを共有したりすることが困難な様子が見られる。	・校内授業研究会の計画的な開催と、情報端末を活用した授業実践の充実	①学校課題研究を意図的・計画的に推進し、情報端末や各種のアプリケーションの効果的な活用についての時間と機会を確保する。 ②学年ごとの研究として情報端末を活用した授業実践を計画し、実践する。 ③経験の少ない教職員に対する、コーチングの視点に立った指導方法の工夫改善研修を実施する。	①学校課題研究の意図的・計画的な立案と理論研究・授業研究の実践を図ることができたか。 ②全ての教員が一人一研究として授業改善の取組に参画することができたか。 ③コーチングの理論に基づく教育相談や研修の機会を設定し、教員相互のOJTを実践することができたか。						